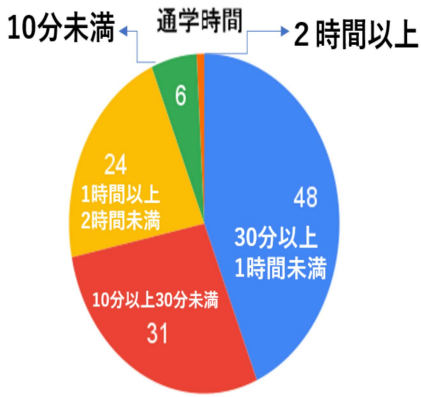


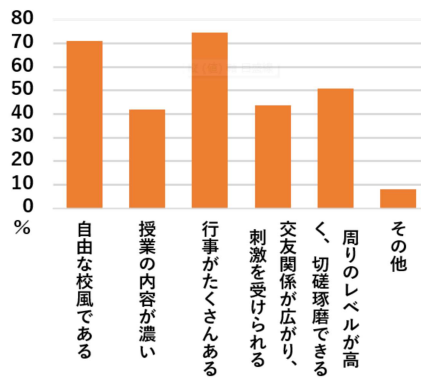
1年生に聞く高高の実態

高高の授業の魅力とは？

高高生の生活と勉強について、7月17日から24日にかけて1年生を対象にアンケートを取



高高の生活で魅力的だと思う点



り、110件の回答を得た。まずは通学時間についてだが、最も多いものは「30分以上1時間未満」で、「10分以上30分未満」がそれに続いた。また、約25%の人は通学に1時間以上を要している。

次に、「高高で魅力を感じる授業とその理由(自由記述)」

「熱のこもった授業をしてくれて集中できる(国語)」、「ギャグが面白い、授業が楽しい(地理)」など、先生に関する回答が数多く寄せられた。また、「発展的な問題や考え方が分かる(数学)」、「中学校より深い探求が興味深い(歴史)」



演奏するマンドリン部

硬式野球部の部長、廣澤圭亮くん(3年)は「今年大会では、チームの目標として一戦必勝を掲げて、試合に臨んだ。ひとまず結果を出せてよかった」と語り、

マンドリン部の部長、大井田智くん(3年)は、「演奏会では、パート間の音量バランスや、互いの発する音を聴き合うアンサンブルに注力して演奏した。奏者の奏でるハーモニーが一つになっていく感覚を味わうことができた」と感想を述べた。また、「定期演奏会の成功を足がかりにして、全国コンクールでは優秀賞の中でもさらに、上位の特別賞を狙いたいと考えていた。演奏した曲はベートーヴェン作曲のエグモント序曲。感情のこもったダイナミクスと間を意識した演奏で、ベートーヴェン特有の音楽世界を高度な次元で再現した」と思いを述べた。

令和8年2月に高校入試が控える中、この夏休みは大事な期間になる。そこで、昨年度の入試で成績優秀者となり、新入生代表として宣誓した寺



勉強に励む寺西くん

成績優秀者から教わる

受験のいろは

西堅くん(1の1)に中学3年生のために受験期の生活について話を聞いた。

「中学校生活で意識した点は、なにより、授業に遅れをとらないようにすることが大切だ。そのため、毎日予習復習を欠かさないよう心がけた。」

「受験期の平日と休日に行なった勉強法は、平日は家だけでなく塾も活用して計2時間ほど学習に取り組んだ。休日は近場の図書館を活用し、およそ4時間半勉強に励んだ。毎日続けるこ

とは大変だったが、リフレッシュを挟むことでやり遂げることができた。

「リフレッシュの具体的な内容は、自分は野球観戦が趣味なので、試合を観たり、野球の情報を調べたりして英気を養った。他には、友人と話したりした。」

「中学生の時に得意な教科と苦手な教科は何だったか。得意教科は社会、苦手教科は国語だった。」

「苦手な国語を勉強するにあたって努力した点は、毎日長文読解に取り組んだ。特に、記述問題に力を入れて解いた。1日で上達するものではないので、継続して着手することで弱点を克服しようとした。」

「最後に、この新聞を読む中学3年生に向けて伝えたいことは、

高高を知る3日間

赤城合宿



鍋割山を登る1年生

高高では、4月に1年生対象のオリエンテーション合宿を2泊3日で行なっている。

1日目は、先生方から日頃の学習方法や、高生活の心構え、SS

日の概要について説明がある。また、高卒生で、全国上位の大学に進学した先輩方による、パネルディスカッションが行なわれ、大学入試に向けた勉強方法等の話がある。

2日目は、合宿場の近くにある鍋割山の登山が実施される。下山後は、上級生から高の学校行事について紹介がある。3日目には、翠巒祭の企画検討が行われる。

今年参加した1年生はどんな感想を持ったのか、アンケートを行なった。その結果、「自由が少なく、大変」といった感想が見られたが、「交友関係が広がり、クラスの絆が深まった」、「登山は大変だったが、登り切った達成感を感じた」、「講義を通して勉強のやる気が高まった」という前向きな感想が多く見られた。また、「高高的の洗礼を受けた」という感想も見受けられた。

この合宿は高生としての意識を高める、有意義な3日間となっている。(岡部)

目標は全国

活躍する部活動

高高では現在、学芸部が21(同好会2つを含む)、運動部が19ある。

その中で、7月に行なわれ

た第107回全国高校野球選手権群馬大会で21年ぶりにベスト4に進出した硬式野球部と、7月に第58回定期演奏会を行ない、全

3回戦の前橋との試合について、「野球部だけでなく、両校それぞれが丸となって、全力でぶつかり合ったため、あのような激闘になったと考えている」と述べた。最後に、「常に一戦一戦を大切にし、挑戦者として試合をした」と考えていた。また、少しでも長く野球を続けられたことに感謝したい」と話した。